

令和2年度 董中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

1-2 「中学生チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようになる。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

1 中学生チャレンジテスト・中学生チャレンジテストplus

学年		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
1 年	学校	262	59.1	63.0	65.4	69.3	67.3	9.3	3.1	4.3	1.6	2.5
	大阪市	—	55.1	56.2	53.3	65.6	62.7	12.4	4.5	8.0	3.0	3.1
1月13日	大阪府	—	56.1	—	54.0	—	63.8	12.7	—	8.7	—	3.3
2 年	学校	278	58.4	64.5	54.2	58.3	54.0	10.4	3.0	7.2	3.2	4.0
	大阪市	—	57.1	55.2	49.3	49.8	51.7	10.6	5.5	9.4	5.4	4.8
1月13日	大阪府	—	58.3	54.5	49.4	49.5	52.0	10.1	5.8	10.0	5.8	4.8

※ 1年生の社会・理科については、「中学生チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は 粒子 領域を選択

※ 2年生の社会は A 問題を選択

結果の概要

【中学校チャレンジテスト、中学校チャレンジpuls】

(1・2年生)

(国語) 大阪府平均に対して1年生では、3.0点、2年生では、1.3点上回った。

(社会) 2年生では、大阪府平均を9.3点上回った。1年生では、大阪市平均を6.8点上回った。

(数学) 大阪府平均を1年生は、12.1点、2年生では、4.9点上回った。

(理科) 2年生では、大阪府平均を8.5点上回った。1年生では、大阪市平均を3.7点上回った。

(英語) 英語の平均点は、2年生は大阪府が52.0点であるのに対し、本校は54.0点であり、大阪府平均を2.0点上回った。1年生は大阪府が63.8点であるのに対し、本校は67.3点であり、3.5点上回った。

成果と今後取り組むべき課題

【中学校チャレンジテスト】

(1年生)

(国語) ・語彙の問題では漢字の読み書きは、概ね大阪府平均を超えていたが、相手や場に応じた言葉図遣いについて知識を生かし空欄に語句を入れる問題では平均を下回っていた。文章読み取りでは、文章全体の内容を理解する問題。目的に応じて読み手に伝わるように書く問題などは平均を下回っていた。

(数学) ・週2回の習熟度別授業において基礎・基本の定着をはかった。また、応用力の向上につとめた。

・記述式に関して正答率が他の問題に対して低く、記述式への対応力をつけしていくように演習課題の工夫を行う。

(英語) ・すべての分類・区分において大阪府平均を上回ったとはいえ、僅差で課題も明確になった。

「聞くこと」の区分で得点率が88.0%という高い数値が見られた。小学校での英語の活動が定着し、中学校の授業での活動に結びついているからだと考えられる。また、授業用パソコンを多く使用することで、音声によるリスニング活動やC-NETによる授業を実践した。今後も継続して取り組んでいく。

(2年生)

(国語) ・昨年度と比較すると、府平均の「話す・聞く」「読む」「知識・理解」のポイントは上回った一方、「書く」の点数は依然として低く、今後の課題である。問題形式別にみると、短答式・記述式の問題の正答率は府平均よりも高かったが、選択式問題の正答率が府平均を下回っていた。昨年度よりも府の平均を上回った領域に関しては、今後も継続した指導を行う必要がある。

(社会) ・地理分野の得点率は7ポイント、歴史分野は12ポイント上回っており、観点別では、全観点とも10ポイント上回っている。問題形式においても、選択式のみでなく、短答式および記述式についてもすべて平均点は上回っている。日常の授業や、課題など細やかに指導した結果、地理分野歴史分野とも、知識理解が定着している。今後は、政治史のみならず文化史についても復習させる必要がある。

(数学) ・すべての領域において、平均を上回ったが、設問ごとについて、「連立方程式の解を求める」、「文字式を利用して説明をする」の2問が大阪府の平均を下回った。一次関数の理解が不足している生徒が多く、基礎的な力はあるが、計算などの学習を継続的に指導していく必要があることがわかる。無回答の生徒もいることから、問題に取り組む姿勢を育成する必要があると考えられる。

(理科) ・全体的にはよく理解していると考えられる。特に、知識の問題は理解している生徒が多い。記述式問題の無回答率が1年生の時より大幅に減少している。また、全体の理科の力を伸ばしていくのに、「理科で探求の過程においてどのような視点で捉えたらよいのか」、「どのような考え方で思考していくのか」も含めて授業をしていきたい。

(英語) ・会話文・スピーチを読み、適切な答えを選ぶ問題に課題が見られた。大阪府平均を下回っているものが多くあった。英語で表現するための語彙力や文法の理解に乏しいと考えられる。日頃の授業の中で、ワークやプリントなどを有効に活用し、基礎学力の定着に取り組んでいく必要がある。今後も習熟度別学習を活用し、「書くこと」や「読むこと」に重点を置いた取り組みを増やし、生徒の英語力が向上するように努める。

【中学校チャレンジテストpuls】

(1年生)

(社会) ・地理分野、歴史分野とも大阪市平均を上回っており、特に世界の諸地域では、12ポイント上回っている。観点別では、資料活用の技能と社会的な思考・判断・表現が大阪市より高く、日ごろの授業やワークの反復練習が結果につながっていると考えられる。

(理科) ・基本的な知識は理解している生徒が多い。記述問題の対策として、授業中に自分の考えを書いたり、実験の考察を書いたり、しっかり書かせることを行う。また、今回短答問題の正答率が市平均とあまり差がなかった。選択問題だと答えられるではなく、章ごとに行っている小テストでも短答問題や記述問題を入れていき、日頃から短答や記述で答えれる力をつけていきたい。